

図形を組み合わせて身近な形をつくることの指導 ～三角形や四角形の色板を使った事例～			
学部・教科	中学部・数学科	事例コード	2 4 1 0
学習グループの実態	・ 中学部3学年（2名） ・ 図形カードや身の回りのものを、丸、三角、四角の形ごとに分類したり、どの形なのか言葉で伝えたりすることができる。 ・ 複数の図形で構成された形を見たときに、三角が2枚で構成された四角の中に、三角が二つ隠れていることに気付くことができるが、三角が4枚で構成された四角の中に、三角が2枚で構成された三角が隠れていることに気付くには支援を要することが多い。		
単元(題材)名	「いろいろな形」		
学習指導要領の内容	算数科／小学部3段階 B図形 ア 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動 (ア) ㊦㊧ (イ) ㊦㊧㊨		
単元(題材)の目標	知識及び技能 ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えることができる。 具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。 【Bア㊦㊧】	思考力・判断力・表現力等 身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。 身の回りにあるものの形を図形として捉えることができる。 身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりすることができる。 【Bイ㊦㊧㊨】	学びに向かう力・人間性等 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。 【小学部3段階B目標ウ】
単元(題材)の計画	総時数4時間 1 形探し（1時間） 2 色板を使った形づくり（2時間） 3 形探し（1時間）		
指導の実際	・ 形探しの活動では、ノートや教室内の掲示物など、身の回りの具体物をタブレット端末で撮影し、三角や四角の形を見付けて、落書きアプリでスタンプを合わせたり、線を引いたりすることができた。 ・ 電車や魚など、生徒が形づくりに取り組みたい形を自分で決めると、具体物の形のイメージをもって、意欲的に色板を操作する姿が見られた。 ・ 色板を使つての形づくりの活動では、下絵を手掛かりにして、色板をずらしたりまわしたりして操作しながら、下絵に色板を当てはめようとする姿が見られた。 ・ 三角を複数組み合わせる際、うまく下絵に当てはめられないことがあった。事前に確認していた色板の動かし方を再確認すると、色板を工夫して動かして当てはめることができた。 ・ 三角と四角の2種類の色板を準備しており、生徒によっては四角の下絵を見て、四角の色板が当てはまることが分かって四角の色板を選択することができた。 ・ 次の段階として、三角を複数枚組み合わせて四角を作ることができることに気付けるように、色板の種類や枚数を教師が決めて提示することが課題である。		

